

2026年4月14日

JR四国・リレーションシップファンド 「株式会社ちきりや」と資本提携

— 資本面・経営面から事業成長を支援 —

日本プライベートエクイティ株式会社

日本プライベートエクイティ株式会社(本社:東京都千代田区。以下、「JPE」)は、今般、四国旅客鉄道株式会社(代表取締役社長:四之宮和幸、本社:香川県高松市。以下、「JR四国」)が全額出資する「JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合(以下、「四国リレーションシップファンド」)を通じて、株式会社ちきりや(代表取締役社長:千切谷耕一郎、本社:香川県高松市。以下、「ちきりや」)に出資、資本提携をいたしました。

ちきりやは、1948年の創業で業歴78年、現在も、地元老舗のベーカリーショップ『春風堂』や洋菓子店『ラ・ファミユ』といった地域で永く愛されるお店をはじめ、『こんぴらプリン』や『道後ぷりん』、『うふいちご』などのユニークな業態の開発やEC販売も積極的に展開、地元の素材を活かした洋菓子を多くのお客様に届けています。

今般、ちきりやでは、四国の洋菓子店としての伝統を守りながら、これまで培ってきた商品力や人財を活かして、引き続き、改革と成長を続けるため、四国リレーションシップファンドを“資本と経営のパートナー”としました。

また、四国リレーションシップファンドとしても、ちきりやが掲げる“おいしさで幸せなひとときを”という理念を尊重し、事業の“承継・継続・成長・発展”をとともに実現するため、今般の資本提携に至りました。

「四国リレーションシップファンド」は、JR四国が全額出資し、JPEが運営する“プライベートエクイティ・ファンド”です。四国を中心に、「事業の承継と成長を両立させたい中堅・中小企業」や「JR四国との連携や四国経済・社会・文化の発展に資する事業を展開する中堅・中小企業」に出資し、地元に残し、共に成長することで、地域・業界・人材の活性化を促し、ファンドを通じた“成長の好循環”を地元で創出、共存共栄による“地域的意義”を果たすことを目指しています。

1. 本件概要

ちきりやの原点である『春風堂』は、1948年に創業、“新しい時代にちょっとしたぜいたくを”との思いから、戦後間もない高松市丸亀町の商店街で地域初の洋菓子店として誕生しました。それから78年経った今でも、50年以上変わらぬ味を貫くフランスパンやスイートポテト、次々生まれる新作パンなど、時代とともに形を変えながら、常に“新しいけど懐かしい”パンのお店として、地域のお客様に愛されています。

2001年には、町のおしゃれで小さなお菓子屋さんとして、フランス語で“家族”を意味する『La・Familie (ラ・ファミーユ)』をオープン、四半世紀を超えて、四国の新鮮な素材を使ったケーキやお菓子を笑顔とともにお客様に提供しています。

また、地元だけでなく、EC販売で全国区の人気商品に育った「黄金バウムクーヘン」や「まっ黒チーズケーキ」、四国を訪れる観光客に大人気の本格派手作りプリン「こんぴらプリン」や「道後ぷりん」といったユニークな商品や新しいブランドを生み出してきました。

四国はもちろん、全国に“おいしさで幸せなひととき”を提供するちきりやは、香川・高松発の洋菓子店として、地域や業界を牽引し、伝統と革新の歴史を紡ぎ続けてきた、地域になくてはならない企業です。

今回、JPEでは、時代や消費者が求めるさまざまなニーズに応え、これまで、ちきりやが、新たな商品やブランドを生み出し続けてきた実績を高く評価し、四国リレーションシップファンドより出資、資本提携を行うことで、ちきりやの企業基盤のさらなる強化を図り、今後の成長発展を共に実現します。



春風堂



2. 資本提携の先に目指すところ

(1) 伝統を守り、改革を続けるために / 資本と経営のパートナーを選択

国内の洋菓子、和菓子、デザート類、アイスといったスイーツ市場は、コロナの終息後、国内外からの人流の回復に伴う観光需要や手土産需要が追い風ともなり、約 2.4 兆円という規模の市場となっています（株式会社矢野経済研究所 調査）。

しかしながら、地域に根差した洋菓子店や和菓子屋さん、大手との競合に加え、原材料の高騰、人手不足と人件費の上昇、物流コストの上昇、消費者のニーズの多様化等、経営を取り巻く環境は厳しくなるばかりで、地域の中小企業や小規模事業者が単独で生き残るのは難しくなっているのが現状です。

ちきりやも、『春風堂』として地域で広く親しまれたパン屋さんであり、地域初の洋菓子店として挑戦と発展を続けて今日に至っていますが、今後も、会社の伝統とブランドを守り続けるため、単独で事業を継続するか、同業大手や他社と組むのかといった選択肢のなかから、四国リレーションシップファンドとの資本提携を選択されました。

地域の老舗企業としてのちきりやの伝統やブランド、社風をそのまま残しながら、社員を中心とした経営により、さらなる成長を目指して改革と挑戦を続けるためには、中立性や独立性、さらには地域性も担保される「四国リレーションシップファンド」を“資本と経営のパートナー”とすることが最も望ましいと判断しての決断です。あわせて、“選ばれた企業”として、JR四国やJPEをはじめとする、新しいパートナーと組むことで大切な事業を確実に次世代へと継承していきたいという、強い思いがそこにはあります。

今後も、ちきりやの経営は、現・社長の千切谷耕一郎氏が、代表取締役社長を務め、JPEは、社外取締役として“経営の応援団”となって経営に参画することで、さらなる成長を共に実現します。

(2) 中長期目線で経営を考えるために / 組織経営への移行

昨今、消費者ニーズの変化のスピードは速く、多様化が進んでいますが、常に“美味しいもの”を求めていることに変わりはなく、スイーツ業界も様々な挑戦ができる市場といえます。

今後、ちきりやでは、四国リレーションシップファンドのネットワークを通じて、“新しい取り組み”や“新しい人材”を会社に採り入れ、社内に“新しい風”を吹かせることで、新商品や新業態の開発、働き方改革といった前向きな施策に取り組みながら、オーナー経営から組織経営へと移行し、より“開かれた会社”となって改革と挑戦を続けていきます。

また、人材確保や人手不足への対応、原材料の高騰、人件費・物流費の上昇など、多くの中小企業が抱える経営課題は、ちきりやにとっても同じで、一朝一夕に解決できるものではありません。しかしながら、今般の資本提携により、経営を見通す時間軸が10年、20年と長くなったことで、これからは、目先の課題だけではなく、中長期的な目線でも経営課題に向き合うことで、より先を見据えた挑戦も可能となります。

今後、ちきりやでも、お菓子づくりの長年にわたる経験、時代とともに新しいブランドや商品を生み出してきたノウハウ、地域で培ってきたお客様からの信頼をベースに、未来志向の改革と挑戦を続けていきます。

(3) 新たな挑戦と成長を続けるために / JR四国グループとの事業連携

今般、ちきりやが、JR四国を唯一の出資者とする「四国リレーションシップファンド」と資本提携を行ったことで、企業としての信用力もより高まり、事業面・人材面・資金面においても事業展開が円滑に進むことが期待されます。

JR四国は、“駅”を起点に、通勤・通学、旅行、出張等の多くのお客様に様々なサービスを提供している他、JR四国グループとしても、地域に根差した幅広い事業を展開しています。

こうしたJR四国グループとの連携により、新しい売り場や店舗づくりへの挑戦、コラボ商品や新業態の開発、新しい販路の開拓といった、新たな挑戦への機会を共に創り出していきます。また、場所(駅ビル・ホテル・催事)や顧客(乗客・宿泊客等)、人材や売り場、物流や保管・管理といった経営資源の共有を通じて、双方が有する有形無形の資産の有効活用を進めることで、業務効率化といった観点からの相乗効果の創出も目指します。

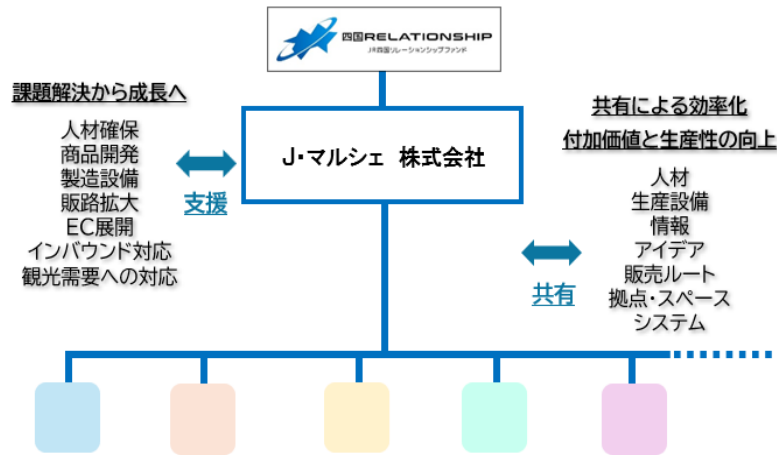
(4) “共創・共成・共栄”を実現するために / J・マルシェ・アライアンスへの参画

今回の資本提携では、四国リレーションシップファンドが 100%株主として設立した持株会社「J・マルシェ株式会社(以下、「J・マルシェ」)」が、ちきりやの新たな株主となります。

四国リレーションシップファンドでは、今後、洋菓子・和菓子・銘菓・土産菓子・郷土菓子といった、四国のスイーツ業界の中堅・中小企業、あるいは、スイーツの素材の生産や流通に関わる周辺企業も視野に置き、J・マルシェを通じて投資や株式の承継(譲り受け)を行うことで、資本によるつながりを構築していきます。

J・マルシェでは、地域の企業を守り、残し、伸ばすために、“共創・共成・共栄”という理念を掲げ、四国のスイーツ業界の中堅・中小企業による緩やかで対等なアライアンス(連携)を構築、各社の課題解決や成長戦略を後押しします。

ちきりやは、J・マルシェのアライアンスに参画する 1 社として自立・独立した企業としてありながら、引き続き、自社のブランド、社風、雇用を堅持し、事業の存続とさらなる発展を目指します。



以上、JPEとしては、ちきりやが、全国で 38 社目の投資先となります。

JPEの経営理念は、“志を継いで 夢をカタチに。夢を継いで 新たなる時代へ”です。

ちきりやが掲げる、『おいしさで人を幸せにして社会に貢献します』『全従業員の物心両面の幸福を追求します』という企業理念を共有し、創業者である千切谷博氏が立てた“志”を継いで、社員のみなさん一人ひとりが思い描く“夢”をカタチにしていきます。

そして、引き続き、JR四国を出資者とする「四国・リレーションシップファンド」の運営を通じて、四国の優良な中堅・中小企業の資本と経営を承継し、各社の課題解決や成長戦略の実現を支援します。

以上

＜本件に関するお問い合わせ先＞

日本プライベートエクイティ株式会社 <https://www.private-equity.co.jp/>

東京都千代田区神田三崎町二丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F

Tel:03-3238-1726 Fax:03-3238-1639

担当：東京本社 企画部 (info@private-equity.co.jp)

四国オフィス 遠藤

四国へ 人を繋ぎ

四国に 人が集い

四国で 人が笑う

四国・リレーションシップファンドは、みんなで“新しい四国”を創ります



＜会社概要＞ （*2026年3月31日現在）

□ 株式会社ちきりや <https://chikiriya.jp/>

本社所在地	香川県高松市丸亀町 4-7
設立	2009年3月17日（創業:1948年）
代表者	代表取締役社長 千切谷 耕一郎
資本金	1,000万円
従業員数	119名（2026年3月現在、パートを含む）
事業内容	ベーカリー店「春風堂」、洋菓子店「ラ・ファミーユ」、 本格派手作りプリン専門店「こんぴらプリン」、「道後ぷりん」等を運営

□ JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合 <https://jr-shikoku-fund.jp/>

組合名称	JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合
設立	2023年10月3日
ファンド規模	20億円
投資対象	四国地域の発展に資する全国の中堅・中小・スタートアップ企業等
出資者	四国旅客鉄道株式会社
運営者	日本プライベートエクイティ株式会社

□ 四国旅客鉄道株式会社 <https://www.jr-shikoku.co.jp/>

会社名	四国旅客鉄道株式会社
所在地	香川県高松市浜ノ町 8 番 33 号
設立	1987年4月1日
資本金	35億円
代表者	代表取締役社長 四之宮 和幸
従業員数	2,010名（2025年4月現在）
事業内容	旅客鉄道事業、旅行業、その他関連事業

□ 日本プライベートエクイティ株式会社（JPE） <https://www.private-equity.co.jp/>

所在地	東京都千代田区神田三崎町二丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F
設立	2000年10月
資本金	6,000万円
代表者	代表取締役社長 法田 真一
事業内容	中堅・中小企業、小規模企業の事業承継や事業再編を対象とした ファンドの運営、コンサルティング